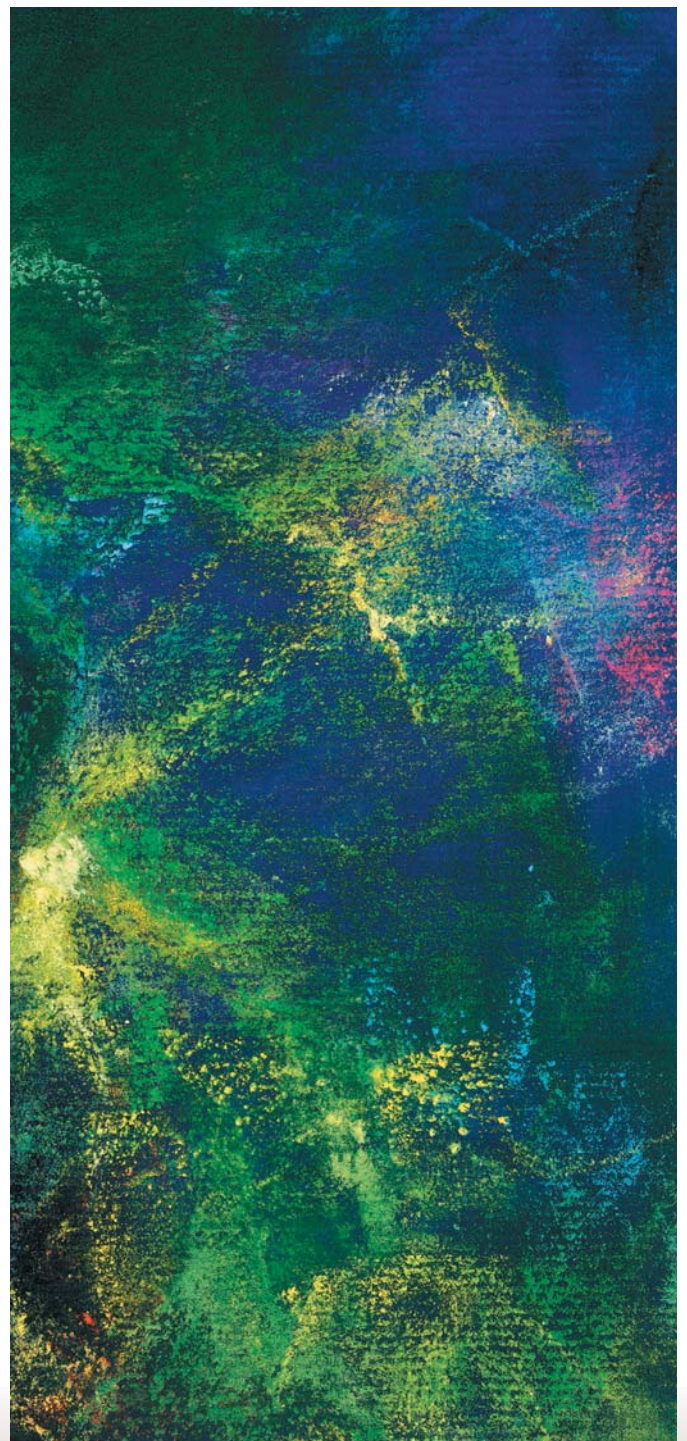


SAGA UNIVERSITY



佐賀大学広報誌 第4号 2005

プロミネンス
全国有数の拠点大学を目指す



いう点では他大学の2倍以上ですが、これを産業界、特に製造業に置き換えると革命的なことだと思えます。私立大学の付属病院ですと業績によってスタッフ数や病床数、設備などで優遇されますが、国立系の大学病院では評価されることはまだまだ難しいというのが現状です。ただただ患者さんのために頑張っているだけです。

股関節手術数は全国第1位

中でも、股関節手術件数は年間に500件前後を誇り、これは全国第1位の数という点ですが。

佛淵 / はい。股関節手術に限定しますと、年間500件前後の手術数で、これは全国第1位の数です。

どのようにしてそれを実現できたのですか？

佛淵 / 股関節手術に代表される難易度の高い大きな手術を安全にかつ効率的に行うために、私たちはチーム一丸となって様々な努力を重ねてきました。「思いやりのある効率的で、質の高い医療」を理念として、毎年具体的なテーマを設けて取り組んできました。「理念」「展望」「戦略」として臨床体制を整備しています。手術件数だけがクローズアップされますが、外来から入院中、退院後のフォローまで、手術の

何倍もの業務があります。これら全てを2000年から本格導入したクリティカルパスという手法で対応しています。クリティカルパスは医療の効率化と、安全で質の高い医療を目的として、米国で発達しわが国に導入されたものです。その運用には診療の標準化が重要で、これまでの主治医の都合や気分で行われることが少なくなかった診療の手順を工程表として示したものです。未だに否定的な意見もありますが、国の政策としてクリティカルパスと電子カルテが推奨されてきました。佐賀大学では全国の国立病院の先陣を切って電子カルテが導入されましたが、い

ち早くクリティカルパスやデータベースに取り組んできた我々整形外科では電子カルテへの対応も順調です。手術件数ばかりが注目されていますが、私達が構築してきた診療システムそのものが評価されつつあります。毎年約20施設から診療システムの見学に訪れていますし、毎年何回かは民間病院や他の大学病院での講演を依頼されています。

私たちが大学病院における診療の改革を行ってきた最大の理由は、全国から押し寄せる患者さんへの対応、要するに必要に迫られたからです。限られた医療資源の中で患者数が増加すれば、効率化や業務改善

を行わなければ対処できません。医療従事者である以上、来院された患者さんには最大限対応できるように頑張っています。私自身赴任以来7年間、旅行や休暇のための夏休みや年休を取ったことがありません。患者さんたちからは、先生、身体に気を付けてください。少なくとも私の手術が終わるまでは。」と励まされています。

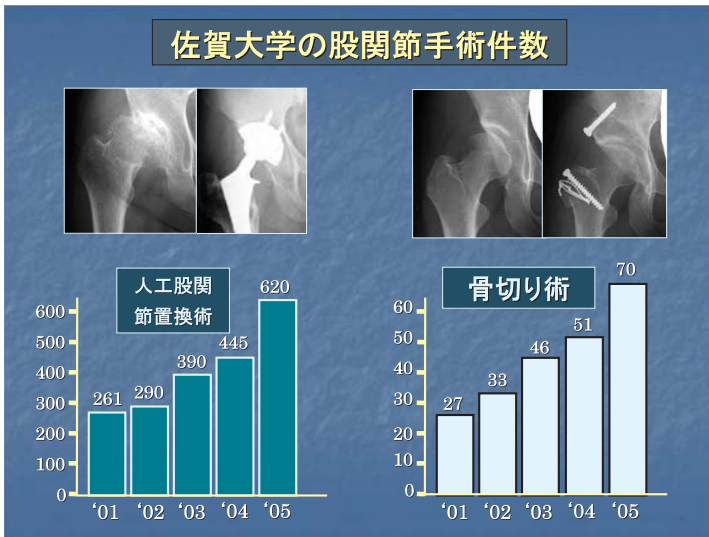
具体的に、どのような手術をなさっているのか、わかりやすく説明していただけますか？

佛淵 / 主な手術は人工股関節置換術と骨切り術です。

最も多いのが人工股関節置換術です。この手術は股関節が変形性股関節症などの病気によって疼痛や機能障害が生じて歩行や日常生活に重大な支障をきたした場合、人工の関節に入れ替える手術です。この手術によって痛みがとれ、日常生活に復帰できるようになります。

特に脱臼したままや関節が強直して全く動かない股関節の患者さんの手術は難しいのですが、症状の改善は顕著で、特に喜ばれます。

私がおっとも得意(?)としているのは実は骨切り術です。これは、自分の骨を使って行う手術で、若い人に対して行います。これも難しい手術で、失敗が許されません。



2004年の股関節手術数(人工股関節置換術と骨切り術を合せた数)は約500件にも上る。2005年は、予想数である。

医学部附属病院 整形外科 佛淵 孝夫教授を訪問

全国有数の拠点大学を目指す

思いやりのある、効率的で
質の高い医療を理念とし、
そのための教育と研究を行う



ほとけぶち たかお
佛淵 孝夫 教授
医学博士。九州大学医学部医学科卒。
平成10年9月から佐賀医科大学 現
佐賀大学医学部 整形外科教授。専
門は、股関節外科学、骨代謝疾患、骨
系統疾患、リウマチ学。

年間800件以上の手術

先生が属する医学部附属病院の
整形外科では、年間800件以上の手術を行わ
れているそうです。

佛淵 / 私たちと同じ位の規模の整形外
科であれば、全体の手術件数がせいぜい400

件前後です。実際、私が佐賀医科大学現佐
賀大学医学部に着任する以前は現在とほ
ぼ同じ条件で年間300前後の手術件数でし
た。また、以前勤務していた大学病院では
それぞれ2倍の医療資源、スタッフ数、病
床数、手術棟で700件前後ですが、私たちは
現在その半分の医療資源で800件以上の手
術を行っているということなんです。「効率」と

法人化後の佐賀大学

話は変わりますが、佐賀大学が国立大学法人化されて2年目に入りました。変わったなと感じることはありますか？

佛淵 / 結論から申し上げますと、期待していたほど変わっていないと感じています。個人も部署も、総論賛成、各論反対の感が否めません。様々な努力はなされていますが、本当に変わるのは早くも10年後と思っています。残念ながら、10年後と横並びの「護送船団方式」で経過するものと思っています。

私自身法人化後も硬直した組織や制度に関して閉塞感を感じています。もっとも不平不満を言っても何も進みませんので、決められたルールの中で、最大限の努力を重ねたいと考えています。幸い整形外科医として努力してきたことが思いがけない形で、しかも病院外で評価されたように、最近様々な人たちが集まってくれるようになりました。つまり患者さんが集まると新たなニーズが発生し、そこに資本と技術が集まってきます。そこで打ち上げたのが「医療健康福祉機器研究開発センター」構想です。佐賀県の古川康知事の「アジアのハリウッド構想」に負けないようにと頑張っています。

佐賀大学はこれからどうあるべきかと思われませんか？

佛淵 / 佐賀大学が学生にとっても、教職員にとっても学び甲斐のある働き甲斐のある大学であって欲しいと思っています。そのためには目先のことにとらわれず、10年、50年先を見据えた展望が必要であると思います。限られた資源の中で全国有数の拠点となるように「数智」と人材を結集すべきではないでしょうか。

座右の銘

最後に、座右の銘を教えてください。

佛淵 / 「志は高く、そして、創意工夫」です。



患者さんから多くの手紙が寄せられている。

佐賀大学医学部附属病院整形外科

関節外科（股関節、膝関節、肩関節など）、手の外科、脊椎外科、リウマチなどのグループに分かれて活発な診療と研究を行っている。病棟のベッド数は50床余りと多くはないが、年間の手術件数は800件以上で、ほとんどの症例でクリティカルパスを用いて効率的で質の高い診療を行っている。特に、佛淵教授が専門とする股関節外科は年間500件前後の手術件数を誇り、その数は全国第1位である。股関節手術後の患者さん宛には定期的に「股関節だより」を送付している。また、「膝関節だより」「脊椎だより」などの情報誌も作成している。



整形外科はエネルギーギッシュな空間である

佐賀大学医学部附属病院整形外科は、佛淵孝夫教授をリーダーに、掲げられた理念を目標に徹底的に効率化された最強のチームである。教授の熟練の技術に加えて、スタッフの綿密なデータ解析と経験により効率的に構築されたクリティカルパスを駆使し、電子カルテの力を最大限に引き出している。日本全国から押し寄せる患者さんの列は、そのような努力の賜物である。

取材当日にも、患者さんからの手紙が何通か届いていた。そのうちの1通は、「過去に別の病院で手術を受けたが、具合が良くない。」と、レントゲン写真を同封して、薫にもすすがる思いで整形外科に宛てたものだった。佛淵教授は、「うちが受け入れないと、頼るところがないんですよ。」と、レントゲン写真に真剣に見入っていた。

（読者の皆様へ）

医療の原則は「効果のあることを」「効率的に」「公平に」行うこととされています。この原則に立って診療を行うことが大切なのですが、実はこの3つを同時に実現するのは困難とされています。特に、「公平に」については、ある意味これがもっとも困難かもしれません。地域や経済状態によって、あるいはコネの有無で入院待ちの期間や受けられる医療そのものに差が生じる場合があります。佐賀大学整形外科では急患以外は原則「来院順」です。現在、手術待ちの患者さんは8ヶ月待ちの状態です。この記事を読まれた読者の方で、手術を希望して来院されても、8ヶ月以上待っていただくこととなりますことをご理解願います。

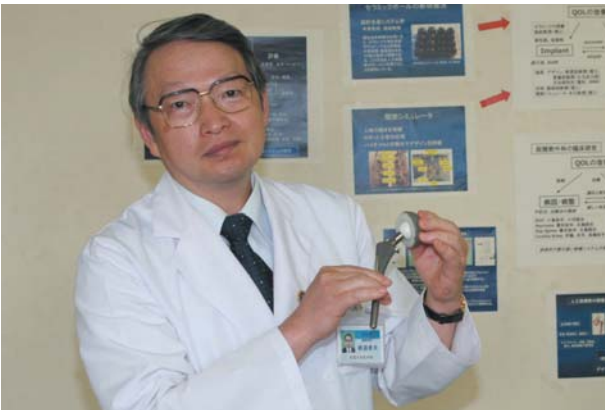
「志は高く」そして

「創意工夫」

患者さんが全国から殺到

マスコミの取材も全て断っているにもかかわらず、全国から先生の股関節手術を希望する患者さんが受診に大変多く来られるとのことですが、なぜそれほど人気があると思われませんか？

佛淵 / 私が行う股関節手術は様々な工夫とチーム医療システム作りの結果、他の



人工股関節の説明をする佛淵教授

病院の専門医と比べると、**手術時間、出血量が半分以上で済み**ます。その結果、**麻酔も下半身麻酔**ですので、午前中に手術をした患者さんは**夕食も取れ**ますし、**術後1週以内**に歩行可能です。その結果、入院中も他の病院に比べて**快適**で、しかも**入院期間が半分以上**ですから、**評価**されているのだろつと思えます。

さらに技術的な理由に加えて、理念にあるように、**まずチーム全体の思いやり**がポイントであるつと思つています。年間100通以上のお礼の手紙が届いていますし、退院された患者さんが身内や知人を紹介してくれます。その結果、現在では**来院される患者さんの90%が口コミ**です。また、患者さんの半分以上が佐賀県外からの方です。

外来にはじめて来院されてから、手術まで8か月も待つていただいています。患者さんには申し訳なく思つております。

手術待ちの患者さんが非常に多いとのことですが、ブレッシャーに感じることはないですか？

佛淵 / 現在、週に10件前後の手術を行っています。体調の悪い時や患者さんの経過が思わしくない時など、手術を引き受けなければよかつた。と思つこともあります。とにかく常に**8か月先までスケジュール一杯**ですので、自分自身の健康管理が一番だと思つています。

しかしながら、現実的な問題として私自身、超人ではありませんが、この過酷なスケジュールは今年一杯でどうにかしたいと思つています。

患者さんに対してはどのようなお気持ちで接しておられますか？

佛淵 / **思いやりと公平を肝に銘じて**接しているつもりです。毎朝、7時30分から回診し、その後も少なくとも3回ぐらいは全ての患者さんに声をかけています。

しかしながら、こちらの思いが伝わって本当に満足していただいている患者さんはせいぜい90%位ではないかと思つています。

お礼の手紙

患者さんからのお礼の手紙の中、でもっとも印象に残っている手紙の内容を教えてください。

佛淵 / どれもが患者さんのお礼の気持ち一杯詰まつた手紙なので、その中から選ぶのは大変難しいですね。特に印象に残っているのは、海外旅行が趣味の患者さんからの手紙で、いろいろな国に行かれるたびごとに、とてもきれいな絵葉書や旅行の感想を書いて送つていただいています。元気で過ごされているのだなあと、私もお手紙を通して非常に嬉しく思います。全ての手紙に共通することは、**手術を受けられてからとても前向きな考え**になつていらっしゃるつこととです。

股関節の病気で悩んでおられる患者さんへのメッセージをお願いします。

佛淵 / いろいろな予防法や治療法がありますが、この病気は**多くの場合進行性で、いずれ手術が必要**となります。手術を嫌がらず早く手術を受けられること、術後のことを考えると、出来れば**お近くの専門の病院で手術**することをお勧めします。

のんびりと過ごせる時間は少ないと思えますが、休日はこのように過ごされていますか？

佛淵 / ゆっくり休める日は月に1回ぐらいいしかありませんから、出来るだけ寝て過ごしています。子供達からは「涅槃像」とな半死半生と呼ばれています。

3年生対象

- ①簿記検定講座4月～6月
〔民間・公務員・教員希望者共通 17年度新規事業〕
- ②就職の手引き(ハンドブック)を作成・配布し就職活動に関する注意事項・心構え等についての指導案内
〔民間・公務員・教員希望者共通 継続事業〕
- ③国税専門官特別講座
〔公務員希望者 17年度新規事業〕
- ④各種就職ガイダンス①～⑩
〔民間希望者 継続事業〕
- ⑤集団討論対策講座・面接セミナー・面接指導
〔民間希望者 継続事業〕
- ⑥本学主催合同会社・個別会社説明会2月～3月
〔民間希望者 継続事業〕
- ⑦公務員就職ガイダンス・合格体験報告会
〔公務員希望者 継続事業〕
- ⑧教員就職ガイダンス・教員合格体験報告会
〔教員希望者 継続事業〕

4年生対象

- ①本学主催合同会社・個別会社説明会4月～6月
〔民間希望者 継続事業〕
 - ②公務員模擬試験4月～5月
〔公務員希望者 継続事業〕
 - ③各自治体採用試験説明会
〔公務員希望者 継続事業〕
 - ④教員採用試験全国公開模擬試験
〔教員希望者 継続事業〕
 - ⑤教員採用支援対策
〔教員希望者 継続事業〕
- 1次試験対策・論文対策・面接対策・模擬授業対策等



平成 16 年度就職状況について

平成 17 年 3 月卒業の学部学生就職率は 93.7% (前年度は、86.2%) となっています。

これは、文部科学省・厚生労働省の発表した大学生の全国就職率(93.5%)を、0.2ポイント上回っています。

元来、九州地区は例年全国レベルより若干低めの就職状況の傾向にありますが、平成 16 年度の九州地区の就職率 91.7%と比較しても 2ポイント上回っている状況です。

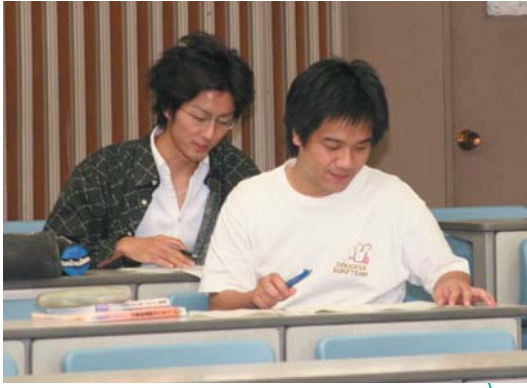


就職相談員の話に聞き入る学生

平成16年度就職状況

H17.5.1現在

学部・研究科	就 職							就職率	進学者数			そ の 他			社 会 人			総計			
	就職者数			未就職者数			小計		男	女	計	男	女	計	男	女	計		男	女	計
	男	女	計	男	女	計															
教 育 学 部	0	0	0	0	0	0	0				0	0	0	0	1	1	0	0	0	1	
文 化 教 育 学 部	43	126	169	4	10	14	183	91.5	92.6	92.3	13	19	32	18	52	70	0	0	0	285	
経 済 学 部	91	90	181	13	11	24	205	87.5	89.1	88.3	2	5	7	51	24	75	0	0	0	287	
医 学 部	43	110	153	0	0	0	153	100.0	100.0	100.0	0	6	6	7	6	13	0	0	0	172	
理 工 学 部	224	41	265	5	2	7	272	97.8	95.3	97.4	176	19	195	36	3	39	0	0	0	506	
農 学 部	32	42	74	8	4	12	86	80.0	91.3	86.0	40	17	57	5	9	14	0	0	0	157	
学 部 計	433	409	842	30	27	57	899	93.5	93.8	93.7	231	66	297	117	95	212	0	0	0	1408	
教 育 学 研 究 科	7	6	13	3	5	8	21	70.0	54.5	61.9	0	0	0	8	14	22	7	7	14	57	
経 済 学 研 究 科	1	3	4	0	0	0	4	100.0	100.0	100.0	0	0	0	2	0	2	2	0	2	8	
医 学 系 研 究 科	8	7	15	1	2	3	18	88.9	77.8	83.3	6	5	11	0	1	1	1	0	1	31	
工 学 系 研 究 科 (前 期)	171	14	185	1	1	2	187	99.4	93.3	98.9	19	3	22	8	2	10	2	0	2	221	
工 学 系 研 究 科 (後 期)	5	1	6	5	0	5	11	50.0	100.0	54.5	0	0	0	12	0	12	6	0	6	29	
農 学 研 究 科	22	4	26	1	1	2	28	95.7	80.0	92.9	5	3	8	5	1	6	0	0	0	42	
大 学 院 計	214	35	249	11	9	20	269	95.1	79.5	92.6	30	11	41	35	18	53	18	7	25	388	
総 計	647	444	1091	41	36	77	1168	94.0	92.5	93.4	261	77	338	152	113	265	18	7	25	1796	



翔け！ 4年生



就職率 93.7%達成



就職指導・支援対策の取り組み状況

佐賀大学では、学長、副学長、各学部長及び各学部委員をもって構成する就職委員会で全学的な就職支援の基本方針を策定し、全学的事業については就職課が就職支援のガイダンス・講演会等を企画・実施し、各学部では各学部就職委員会が学部独自の就職支援活動を行っています。

平成 15 年 10 月の佐賀大学と佐賀医科大学の統合時に、就職課を設置し就職支援の充実を図っています。

民間企業における職員採用の経験豊富な就職相談員（本学卒業生）を配置して、学生の個別相談に応じ、的確なアドバイスを行っています。

就職専用のパソコンを就職課に設置し、就職情報を学生が入手できる環境を整えています。

佐賀大学では、学生の皆さんが希望する企業等に全員が就職することを目指しています。

平成 17 年度に予定されている就職支援の概要は以下のとおりです。

1 年生対象

①キャリア教育 4 月～7 月

正課教育（必修科目「大学入門科目」）の 15 回のうちの 2 回を利用して、キャリアカウンセラー・卒業生等によりキャリアデザインの大切さ、適性や能力アップ、就職活動の仕方、学生時代に思ったことなどの講演を行い、将来の仕事について考えさせている。

②キャリアデザイン演習①～⑥

〔民間・公務員・教員希望者共通 17 年度新規事業〕
卒業後の社会人を想定し、4 年間の学生生活で何を自分に蓄えるべきか、どんな能力を向上させるべきかなどを、主として討論形式の 6 回シリーズで認識させる。

③その他、R-キャップ解説会、キャリアマップ体験講座等

〔民間・公務員・教員希望者共通 継続事業〕

2 年生対象

①業界セミナー①～⑫

〔民間企業希望者 17 年度新規事業〕
建設・食品・金融業界はじめ、東証 1 部上場企業 12 業界からの担当者による業務の内容・現状解説

②受験ガイダンス、キャリアマップ体験講座

〔教員希望者 継続事業〕

③就職入門講座・活動準備講座①～③

〔公務員希望者 継続事業〕

④公務員受験対策講座 5 月～3 月

〔公務員希望者 継続事業〕





海浜台地生物環境研究センター
副センター長
小林 恒夫

海の恵みを陸へ、 陸の恵みを海へ

—台地と海の関わりのもとで、
生物と環境の資源を守り育てる—



(写真①) 熱帯原産ヒヨコマメの栽培

本研究センターは山 川 海といわれるように、陸域と海域を別々のものではなく、一つの生態環境システムとしてとらえ、それらの相互作用並びに環境保全的・資源循環型の農水産業の在り方を総合的に研究する国内外でもユニークな研究センターです。

具体的には、4分野の研究室において、佐賀県北西部の海浜台地・東松浦半島を対象に、陸域・海域相互作用メカニズム及び農漁業の持続的発展モデルの解明を目指しております。以下に、その成果や取組状況を紹介します。

生産生態学分野では、海浜台地・東松浦半島特産のさつまいもなどの根物の高品質性の科学的根拠を成分分析により解明し、また現在では作らなくなった雑穀など、在来作物の機能性を見直し、同時に栽培試



(写真②) 希薄海水灌漑によるトマト栽培

験により世界各地から利用価値の高い野菜(写真)などの新作物の導入を試みています。

浅海域生物資源学分野では有望な新薬の探索源である海藻類に注目し、これまでに全国延べ100箇所以上から350種を超える海藻類を採取し、これらを遺伝資源として保管しているほか、これらの中から老人性痴呆症のひとつ、アルツハイマー症の治療薬の開発を試みています。すでに褐藻類の1種類から神経細胞を活性化させる物質を発見し、欧米の学術雑誌に多くの論文を掲載している他、アルツハイマー症治療薬への実用化を進めています。

環境情報学研究分野では、上場台地及び脊振山地を対象として農業活動が陸水に与える影響について調査を行なっています。また潮風害予測法の確立を試みてい



(写真③)

出版物『半島地域農漁業の社会経済構造』

著者名 小林 恒夫

九州大学出版会

ます。唐津周辺の高品質農産物の開発を目的として、希薄海水灌漑によるトマト栽培(写真)及び砂地土壌による小形サツマイモ栽培を行なっています。虹の松原の環境調査を行うほか、松露育成、松葉炭の利用による屋上緑化や水質浄化に関する研究を行なっています。

文系に属する環境社会学分野では、海浜台地を半島ととらえ、東松浦半島が日本を代表する半島であると位置づけながら、そこにおける農漁業の展開メカニズムを明らかにし、それが日本の半島地域における普遍的動向であることを論証し出版物(写真)として公表しました。これを、海浜台地学の第1弾とし、引き続き、唐津市内の7離島を対象に、近海小離島に関する総合的研究を進め、海浜台地学・第2弾として、その体系化を目指しています。

教員養成改革フォーラムの様子



高等教育開発センター長
新 富 康 央

教育改革を通して、大学改革の種まきを

「教育先導」大学という言葉も、本学において定着し始めたようです。なぜ、「教育優先」でなく、「教育先導」なのか。この点について、論議が余りなされないまま、言葉だけが先行してはいますが、この言葉を具体化していく機関が本センターだと、自負しています。「教育改革を通して、大

「教員養成改革」への提案（報告書3部）と実施、新しい教育資源の導入、学生中心の大学づくりの支援、教養教育運営機構や地域貢献推進室等の学内教育研究施設および大学教育委員会等の各種委員会との連携事業（GPA導入の検討、「地域創成型学生参画教育モデル開発事業」、有田町や佐賀県との協力協定締結）などです。

生まれただけの若いセンターの利点でしょうか、「全国初」という試みをいくつか実施してみました。全国初の同窓会による提供講座（キャリア教

「教育先導」大学特区を目指して

学改革に迫る」ということでしょうか。

本センターは、実質的には昨年4月に立ち上がったばかりです。しかし、皆様のご支援をもちまして、昨年1年間、多くの実績を上げることができました。FD・SD

フォーラムの実施と「FDハンドブック（第1号）」の作成、本センターの緊急課題である

育）、全国初の県からの提供講座（映像学、映像芸術論）の教養教育への導入、全国初の「授業改善学生会議」の実施、個別大学主催では全国初の「教員養成改革フォーラム」の開催、佐賀大学HP上の全国初の「高校生のためのキャンパス通信」コーナーの設置などです。これからも、若さ故の試みを企図していきたいと考えています。

本年度は新しい種まきを企画すると同時に、昨年度まいいた種を苗へと育てていかなければなりません。特に、後者の育苗が大変です。昨年度、Web



FD・SDフォーラムの様子

上でプリテストとして実施した「佐大生の教育・学習経験に関する調査」の本格実施、昨年度、教員養成改革案に盛り込んだ「教育実習」や「教育ボランティア」等の試験的実施に向けての支援、昨年度企画された地域貢献推進室との連携事業「地域創成型学生参画教育モデル開発事業」の6つのプログラム円滑な運営などです。

本センターは、佐賀大学や地域社会の教育ネットワークに支えられてはじめて動くことができます。皆さんの支援の力で育つセンターなのです。

SAGA ダイレクト

佐賀大学生のためのお役立ちサイト



SAGA ダイレクト代表
(理工学部 知能情報システム学科 4年)
立石 晴久

SAGA ダイレクトとは何なのか？ 簡単に言うと、佐賀大学生向けのホームページです。そして、私が代表者として、同名のサークルが企画、運営しております。メンバーは全部で12名です。毎週水曜日にミーティングを行い、情報や意見をとりまとめて全体で共有を図れるように心がけています。

SAGA ダイレクトの理念は、佐賀大学生一人ひとりに充実した大学生活を送ってもらうことです。それを実現するために、情報配信によって、佐賀大学生のサポートをしていこうというものです。ホームページの内容としては、サークルの情報、就職活動の情報、大学周辺のお店情報といった、大学生が欲しいと思っている情報を配信しています。

まず、大学に入って何をしたいか。多くの学生は、部活やサークルに入りたいという声があります。しかし、佐賀大学の現状では、どこに、どのようなサークルがあるか、分かりにくい状態です。そこで、その問題を解決すべく、「サークル名鑑」という企画を作りました。佐賀大学には、部活・サークルと言っても、大学公認と、非公認の団体が混在しています。それらの団体の基本情報集を作ることで、どこに、どんな部活、サークルがあるか、佐賀大学生に分かりやすく紹介することで、入りたい団体を少しではありますがありますが、見つけやすいように工夫しています。

その他の活動内容としては、イベントの企画をしています。就職活動をしている学生向けのイベントを自分たちで企画したり、新入生向けのセミナーを生協と共同で行ったり、クリスマス時期に、学生会館前をイルミネーションでライトアップするなどの企画をしてきました。このイルミネーションの企画は、本当にたくさんの方のご協力によって実現することができました。クリスマスのちょうど1カ月前、クリスマスに大学でなにかおもしろいことができなにか、その一言ではじまりましたが、お金も無い、物もない、全くのゼロからスタートでした。しかし、佐賀大学学友会、生協、大学、学生と様々な方々に協力していただき、わずか1カ月という短い期間で達成することができました。

あらためて、自分の4年間を振り返ってみて、これまでの経験の重みを再認識しました。大学生活で得てきたもの全てが今の自分を作り、そしてその成果が、今やっと形として表れてきているのだと、感じています。その一つの形が、「SAGA ダイレクト」として表れているのだと思います。

そして、自分の得てきたもの全てを、自分の後輩たちに還元していきたい。自分が先輩たちにそうしてもらったように。

これからの、SAGA ダイレクトの活躍に、そしてなによりも、佐賀大学の発展に、皆様どうぞご期待ください。



ホームページ

URL <http://sagadirect.net/>

問い合わせ先

E-mail info@c-styleworld.com

さが錦をアイスに大開発！



科学技術共同開発センター
副センター長

佐藤 三郎

平成14年度から、全学部1～4年生を対象とした教養教育主題科目の一環として、『チャレンジ・ベンチャービジネス』を開講している。この科目はフィールドワークを伴う課題解決型の講義で、詳しくは下記の手順で進めた。

- (1) 企業・施設に、学生（約100名）を連れて見学する。
- (2) 企業が抱える課題を提示戴き、学生への宿題として持ち帰る。
- (3) 学生を10名程度の小グループに分け課題の調査研究をする。必要に応じ再度見学する。
- (4) 前期終了時に、検討結果を学生および企業のトップの前で中間報告する。
- (5) さらに後期の半年を使って、戴いた課題を中心にビジネスプランを構築し、市民参加型のビジネスプランコンテストを開催する。



村岡屋見学

3年目となる平成16年度前期は、電気工事会社(株)シグマ、ドラッグストア(株)ドンキー薬局、佐賀市商工振興課とチャレンジショップ、若楠小学校、和菓子の老舗(株)村岡屋、配電盤製造業(株)古賀電機、ビジネス教育産業(有)佐賀情報ビジネスを見学した。また、佐賀新聞社の広告部門を担当する(株)佐賀広告センターと共催で訪問企業をPRする広告プランコンテストを実施した。この結果、得られたアイデアは、(株)シグマの省エネ技術のPRとして、佐賀新聞に全紙広告が掲載されたほか、(株)ドンキー薬局の夏物商戦の広告宣伝に活用された。

さらに、後期には秘密保持並びに発明の取扱いのために、シグマ、ドンキー、古河電機、村岡屋、佐賀広告センターのほか、(株)竹下製菓、(株)あんくるふじや等7社の企業と共同研究契約を結び、ビジネスプランの構築を行なった。この結果、70名の参加者を得て第2回ビジネスプランコンテストを実施し、以下のテーマが優秀賞に選ばれた。

最優秀賞：MYCE (myice)：アイスクリームの自動製造・販売機

優秀賞： さが錦をアイスに大開発

ドンキー薬局顧客獲得プラン

若者のお菓子に対する意識調査

IT教育と省エネ事業を結びつける官民一体事業

ITメールや携帯電話メールを利用したネットマーケティングのプラン

あんくるふじやの酒コーナーの改善

あんくるふじやの若者の集客を増やす：イベント企画

これらはいずれも学生ならではのアイデアや発想が盛り込まれたもので、今から直ぐ使えと企業関係者には大好評であった。コンテストの結果、企業のお買い上げ1点、特許案件3件が生まれた。なお、企業関係等からの寄付により最優秀賞として副賞金一封が渡された。

このように本報で提案する試みは、学生を活用することで多少手間が掛かるものの、今まで接触の無かった流通・小売などの業界と新たな連携を構築する上で有効であると考えられる。

「チャレンジ・ベンチャー・ビジネス」着々と
学生向け授業を活用した地域との産学連携の試み



親子ふれあいフェスタの運営風景（4月佐賀県総合競技場）



九州大学1部リーグ昇格を決めた瞬間（5月8日、対熊本大学）



試合風景（5月8日対熊本大学）

佐賀大学生の「元気」を スポーツから内外に!!

佐賀大学サッカー部顧問
文化教育学部 助教授
坂元康成



巡回指導 呼子幼稚園での一コマ



ユニキッズ指導風景（佐賀大学陸上競技場）

2004年度より佐賀大学サッカー部は天皇杯佐賀県大会初制覇を皮切りに、目覚ましい躍進を続けている。今年度も2年連続の九州大学リーグ1部昇格を成し遂げた。もちろんクラブ創設以来初の快挙である。7月より開催される天皇杯の連覇と全国大会での打倒Jリーグを目指し日々精進しているところである。

これらの活躍により、メディア等を通じその存在意義を広く知らしめることは出来たと自負しているが、この成果を分析してみると、それは科学的・合理的トレーニングによる急激な技術の向上よりはむしろ、教育を通じた人間的成長によるところが多分に大きかったようである。

大学のサポートを受けながらスタートした地域貢献支援事業：ユニキッズサッカースクール（毎週土曜日150名）も3年目に突入した。すべての学生を投入しての取り組みは教育・指導を経験することによる責任感や期待に応えようとする真摯な姿が練習場面に顕著に現れ始めている。

さらに昨年度より、佐賀県は日本サッカー協会が推し進める重点施策：キャプテンズミッション3～「JFAキッズプログラムの推進」の採択を受けた。佐賀大学サッカー部が中心となり、県内30箇所の幼稚園・保育園の巡回指導、5会場での親子ふれあいフェスティバルの開催（参加人員1回当たり2000人）、キッズリーダーとしての指導者認定講習会、諸イベントの事前研究会等を精力的にこなしてきた。折しも偶然参加され、感銘を受けた佐賀市長の投稿記事は日本サッカー協会のJFAニュースや市報に掲載され、CM（JAバンク佐賀、大阪医療専門学校：現在放映中）に採用されるなど好評を博している。平日の空き日を縫ってほとんど休みなく、淡々とその任にあたってくれた学生諸君に感謝感謝である。

今年度もさらに事業規模（総事業費700万円）を拡大していく予定だが、これらの教育経験を通して、パフォーマンスのみならず、佐賀大学生の「元気」と地域貢献による「存在意義」をますますアピールしていければ、と考えている。

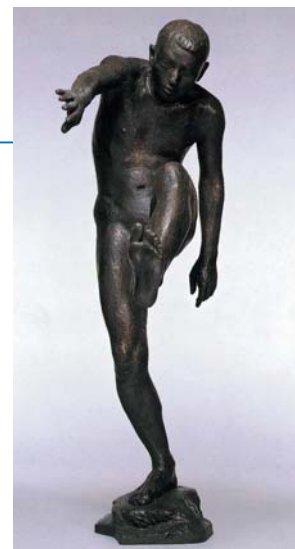


文化教育学部 成富 宏 教授 日展の審査員に 選出される

文化教育学部美術・工芸講座の成富 宏教授が、この度第 37 回日本美術展（通称「日展」）の審査員に選ばれた。この審査員に選ばれるためには、日展で特選を 2 回受賞することが条件となっており、成富教授は、1995 年と 97 年に特選に選ばれている。

成富教授は本学教育学部出身。卒業後高校教師となり教鞭を取る傍ら創作活動をしていたが、「それまでは作り易いものを作っていたが、これからは、自分が作りたいものを作っていきたい」と決意。昭和 60 年から本学で彫刻を教えながら創作活動に精力的に取り組み、その情熱が学生たちにとってもいい刺激となっている。

「自分の中にあるもやもやしたものを表現するために作り続けている。やっと、そのもやもやに近づいたかと思ったら、次の作品ではまた遠のいてしまう。それを追い求めて一生作り続けていきたい。」こう語る成富教授の、95 年に特選に選ばれた「空(くう)」は、雲の上で前へ踏み出して行こうという躍動感に溢れた作品であり、今でも一番思い入れの深い作品だという。



■「空(くう)」
第 27 回日展
(1995)特選

海洋エネルギー研究センターの「海洋温度差発電の技術」が、「愛・地球賞」に選ばれた。この賞は、2005 日本国際博覧会協会が、愛知県で開催されている「愛・地球博」にあわせ、地球環境問題の解決と人類・地球の持続可能性に貢献する 100 の地球環境技術を選定したものである。9 月 1 日に、「愛・地球博」の会場で表彰式が行われ、表彰状のほか、記念品と賞金が贈られる。

門出政則センター長は、「この受賞を励みに、環境にやさしいこの発電システムの実用化に向けて、センタースタッフ一同、より一層努力していきたい。」と受賞の喜びを語った。

海洋温度差発電の概要

海洋の表層部の温海水と深層部の冷海水との間には約 10 ~ 25 の温度差がある。この海洋に蓄えられた熱エネルギーを、電気エネルギーに変換する発電システムが海洋温度差発電である。

基本的な海洋温度差発電システムの主な構成機器は、一般的な火力発電と原理的には同じであるが、化石燃料を用いず、放射能の心配もないのが大きな特徴である。

一方、これまで海洋温度差発電では作動流体としてアンモニアが利用されてきた。当センターが発明したシステムは、アンモニアに水を加えたアンモニアと水の混合物質を用いるなどの工夫を行い、海洋温度差発電のサイクル効率が飛躍的に向上することが期待されるなど、次のような技術の特徴を有する。

- (1) 必要な海水の量を減らす。
- (2) ライフサイクルアセスメントで 10 万 kW の場合、水力発電なみに環境にやさしい。
- (3) 単なる電気だけでなく、化石燃料を利用せず水資源の開発、魚場創生、海洋深層水の医療分野への利用、リチウム回収、水素製造など複合的な利用が可能である。

「愛・地球賞」受賞 佐賀大学海洋エネルギー研究センター の海洋温度差発電



センター長
門出 政則

学長賞受賞者の表彰

佐賀大学では、学術研究や文化活動、スポーツなどで活躍した学生及び学生団体を表彰しています。平成17年3月29日の学生表彰授与式では、下記の学生たちが、長谷川照学長から表彰されました。

学部等	氏名	内容等
鹿児島大学大学院 連合農学研究科	森山典子	日本微生物生態学会第20回大会 優秀発表賞 平成16年11月22日受賞
工学系研究科 システム生産科学 (博士後期)	石川洋平	第4回 IEEE (米国電気電子学会) 福岡支部 「学生研究奨励賞」 平成17年3月受賞
文化教育学部	西山正晃	別府アジアビエンナーレ2005展=絵画展 審査員特別賞 平成17年1月28日受賞
教育学研究科	菘岡勇氣	第58回二紀展 奨励賞 平成16年10月24日受賞
医学部弓道部	代表者 伊藤寛 他5名	第43回九州・山口医科学生体育大会 男子団体 優勝 平成16年5月4日受賞
ぐるりんお譲り マーケット 実行委員会	代表者 入佐耕平 他12名	毎年、卒業生から不要な物を譲ってもらい、それを必要としている 新入生や留学生、在学生に使ってもらおう仲立ちをするリユース市「ぐ るりんお譲りマーケット」を平成10年4月より開催し、前回で第6 回を迎えた。また、財団法人学生サポートセンターから平成16年度「学 生ボランティア団体」助成金に応募し、採択された。
佐賀環境フォーラム 実行委員会	代表者 川崎伸夫 他7名	佐賀環境フォーラムは、市民、行政、大学が一体となり、正しい情 報を提供し、さらに啓発活動を続けてきました。また同時にワーク ショップという形で市民・学生が各テーマに沿った調査・研究も行 っています。これらの活動は地域にも充分貢献している。 この活動が認められ第2回全国大学生環境活動コンテストにおいて 特別賞を受賞した。

【お知らせ】

国立大学法人佐賀大学では役職員の報酬・給与等を公表しています。佐賀大学公式ホームページ <http://www.saga-u.ac.jp> の新着情報をご覧ください。ホームページをご覧になる環境にない方は、佐賀大学企画総務部人事課給与管理係に資料を用意しておりますので、ご連絡下さい。(TEL0952 28 8125)

編集後記

広報室ができて慌しく一年が経過しました。教育や研究の面で、佐大がいかに活発に活動しているかを、少しでも多くの人に知ってほしいと、さまざまな企画や活動をおこなってきました。そのため、少しずつですが、広報室の認知度も高まってきたように感じています。しかし、より客観的な目で見ると、佐大の良さだと思われるものも手当たり次第に公表してきただけなのかもしれません。そろそろ的を絞って、「佐大ブランド」とは何かを見極めることが必要となつていいると思われま。そういう意味で、本誌の巻頭では、いわゆる佐大の有名教授を取り上げました。大学のブランドは、何といつても、教授陣がその土台となります。これから定期的に紹介していきますので、ご期待ください。

(広報室長 早瀬 博範)

佐賀大学の次期学長は 長谷川照現学長に決定。

平成17年6月9日の学長選考会議において、佐賀大学の次期学長候補者は現学長である長谷川照氏に決定しました。任期は、平成17年10月1日から平成21年9月30日までの4年間です。



記者会見をする長谷川照現学長
(平成17年6月14日)

佐賀大学で「映像 夢



佐賀県知事
古川 康



村岡屋社長
村岡 央 麻



映画評論家
西村 雄一郎



STSアナウンサー
松永 優 子



佐賀大学長
長谷川 照

佐賀大学では、5月21日(土)、広報室主催(佐賀県共催)により「映像 夢づくり～SAGAを映像文化の拠点に～」と題してキャンパスフォーラムを開催した。

このフォーラムは、オープンキャンパスの一企画であるとともに、佐賀大学と佐賀県が、デジタル関連産業の集積を目指す県の「アジアのハリウッド構想」推進のため締結した相互協力協定の一環でもあり、佐賀県の活性化について、映像文化を軸として意見を交わした。

フォーラムに先立ち、映画評論家であり佐賀大学非常勤講師でもある西村雄一郎氏が講演し、「張込み」「男はつらいよ」など、佐賀県内を舞台にした映画を紹介しながら「佐賀を映像作家が撮りたくなるような町にしていきたい」と熱弁を奮った。

続いて、長谷川照学長や古川康佐賀県知事ら5人のパネリストによるシンポジウムが開催され、長谷川照学長が「佐賀大学の持っている人材やノウハウを活かし、地域の活性化のために、佐賀に映像文化を根付かせることができるよう、積極的に協力していきたい。」と語った。

当日は、近郊の地域住民や学生約200人が訪れ、会場は終始熱気に包まれた。



熱気に包まれたシンポジウム風景



佐賀の活性化について語る
長谷川学長(右)

づくり～SAGAを映像文化の拠点に～を開催

誌 上 ギ ャ ラ リ ー

作品名 「一滴を待つ間」

すぎ お ひろ き
杉尾 浩貴 (教育学研究科美術教育専修2年・彫塑専攻)
(平成17年度佐賀美術協会展で鍋島報効会賞を受賞)



【作者プロフィール】

1982年宮崎県東諸県郡国富町生まれ。
現在、教育学研究科美術教育専修2
年次在籍。彫塑専攻。日本彫刻展（通
称「日彫展」）、佐賀県美術展、宮崎
県美術展、その他公募展等に出品、
入選・受賞。

【作者コメント】

大学では主に人物をテーマに製作を
続けてきました。最近は動物やキャ
ラクターなども作っています。型取
りや着色など工程の多い作業で、思
った通りの表現に辿り着けないこと
もありますが、造形の楽しさを日々
かみしめています。